

# 日本医療秘書実務学会 第9回全国大会 研究発表の概要

2018年9月8日(土)・9日(日)

発表10分 質疑5分

※1行目は主発表者

## ● 9月8日(土)

| 時刻          | 発表者・共同発表者・タイトル・概要  |
|-------------|--|
| 16:00-16:15 | <p>● 荻安 真澄 医療法人順和会 京都下鴨病院</p> <p>○外来診療補助業務でのメディカルクラークの役割とより良い医療環境へ向けて<br/>                     当院では整形外科医療を中心に、スポーツ整形、関節リウマチ、関節外科の専門的医療に力を注いでおり、年々手術件数が増加している。高度な医療の提供を実践しており、医師が限られた勤務時間の中で、待ち時間の短縮や「患者中心の医療」を行えるよう、メディカルクラークが行っている代行入力時の工夫や多岐にわたる使用薬剤への理解や知識の習得に向けた取り組みを発表する。</p>                 |
| 16:20-16:35 | <p>● 早田 真樹 福岡医健・スポーツ専門学校</p> <p>○医療秘書における『屋根瓦方式』の教育について<br/>                     医療秘書における人材育成教育の一環として屋根瓦方式の教育を実施しており、この教育の成果について発表する。屋根瓦方式の教育とは、教えられた人が次に教える側に回り、技能を伝える教育の事である。2年生は1年次に医事コンピュータ技能検定2級を修得しているため、コンピュータ操作や試験に関わる対策授業を1年生に教える事が可能となる。その際に求められるコミュニケーション力やマネジメント力が医療の現場で役立つと考えている。</p> |
| 16:40-16:55 | <p>● 吉田 博 医療法人医仁会 ふくやま病院</p> <p>○今求められる、中小病院事務職員のあり方へのアプローチ<br/>                     近年、病院における事務職員の役割は多岐にわたっている。特に、当院のような中小病院においての役割は重要なものである。ふくやま病院は2017年11月、開業以来43年活動を続けた西明石の地から東へ4キロ移転し新たな活動を開始した。移転半年後の2018年4月に入職してから、拠点を移すことにより明らかになってきた事務部門の問題点を洗い出し改善するべく行ってきた取り組みについて、途中経過として発表する。</p>     |

## ● 9月9日(日)

|            |   |
|------------|---|
| 9:15-9:30  | <p>● 龍岡 ちなみ 福岡医健・スポーツ専門学校<br/>                     石田 真里南、山崎 裕子(福岡医健・スポーツ専門学校)</p> <p>○「病院におけるクレーム対応ハンドブック」制作について<br/>                     私たちは、病院実習に行った際、待ち時間についてのクレームに遭遇し、正しく接遇対応する難しさを実感した。この経験を元に、クレームに対する原因や背景などを調査し、研究のテーマとした。また、医療窓口で活用できる「クレーム対応ハンドブック」があれば良いのではと考え、各医療機関に接遇面や待ち時間に対するアンケートを行い、8ページの冊子として制作したところ高い評価を頂いた。</p>   |
| 9:35-9:50  | <p>● 東野 國子 大阪教育大学大学院研究生</p> <p>○医療コンシェルジュの実態調査<br/>                     短期大学等の医療秘書養成課程において卒業後即戦力となるべく深い医学知識や電子カルテの操作などが必要とされる「医師事務作業補助者」に対して、近年医療機関ではサービスに特化した職種が広がりを見せている。「医療コンシェルジュ」である。本研究は医療コンシェルジュを導入している医療機関の「医療コンシェルジュ責任者」と「医療コンシェルジュ担当者」それぞれに質問紙を送付し、その実態を明らかにすることとした。</p>  |
| 9:55-10:10 | <p>● 森 靖之 高松短期大学/秘書科<br/>                     関 由佳利(高松短期大学)</p> <p>○高松短期大学秘書科医療事務コース3回目のカリキュラム再編へ：日本医師会認定医療秘書養成機関へ<br/>                     医療事務コースが誕生して5年が経過し、初年度から比べると2倍以上の学生数となったが、医療事務の実習先および求人数が毎年直前までわからない不安定な要素があることも事実である。そこで今回、香川県医師会と協定を締結し、2018年度入学生から本学が香川県医師会から委託を受けた日本医師会認定医療秘書の養成校となり、再度カリキュラムを再編したことを報告する。今回のカリキュラム再編は、資格取得の充実だけでなく、香川県医師会との協定の締結により、実習先や求人数の安定化にも期待している。</p> |

|             |   |
|-------------|---|
| 10:20-10:35 | <p>●緒方 信明 福岡医健・スポーツ専門学校</p> <p>○働き方改革を背景にした医療秘書の役割への新たな提言</p> <p>医療の質や安全性の向上及び高度化・複雑化に伴う業務の増大に対し、コメディカルスタッフが業務を分担するとともに患者の状況に対応した医療を提供するチーム医療が医療現場で実践されている。医師の業務改善において少しずつ成果が出ているが、働き方改革に示されているように医師の長時間労働の改善が急務とされている。そこで、本発表では、病院管理運営の視点から、医療秘書の労働分析・提言・実践など働きやすい環境づくりに向けた役割を提言する。</p>  |
| 10:40-10:55 | <p>●吉岡 祐江 (株)医療事務サービス／田主丸中央病院</p> <p>○医事課における新人教育 OJT と 3 者面談を利用した中堅スタッフの育成に関する一考察</p> <p>指導者について項目を定めた指導報告書の提出を、また新人においても同様の報告書提出を求め、それを基に 3 者面談を実施した。部署長が間に入り、ファシリテーター的な役割を担うことで指導者については指導技術のスキルアップと指導に伴うストレスの軽減を図ることができた。新人についても一定期間、部署長が介入した面談を実施することで業務に取り組む姿勢や人間関係構築に良い影響を及ぼした。</p> |
| 11:00-11:15 | <p>●仁宮 崇 中国短期大学／総合生活学科</p> <p>○逆思考法を用いた診療報酬請求事務学習</p> <p>医師が診察時に記載した診療録を見ながら、投薬、注射、検査、画像診断等の診療行為を過不足なく算定する診療報酬請求事務の知識や技能は医療事務職員にとって不可欠である。しかし、診療報酬請求事務は医療の専門用語が多く、算定の規則が複雑であり、苦手と感じる学生も少なくない。そこで、「逆思考法」を取り入れた教材を作成して学習することで学生の理解力向上につなげたいと考えた。取り組んだ現状を報告する。</p>                           |
| 11:25-11:40 | <p>●加藤 亜紀 接遇・マナーCherry</p> <p>○医師事務作業補助者の環境の実態と課題</p> <p>医師事務作業補助者に必要な 32 時間の研修を複数の医療機関で行うにあたり、医療現場の経験や知識も全くないまま、不安や戸惑いを感じながら業務を行う医師事務作業補助者を多数見てきた。また、医師事務作業補助者の知識や意識に個人差があることも否めない。そこで、複数の医療機関で医師事務作業補助者を取り巻く環境を把握するため調査を実施した。本発表では、調査結果から見えてきた課題について考察を行い、より良い業務の提案に繋げたい。</p>           |
| 11:45-12:00 | <p>●原 成孝 原三信病院</p> <p>○診断書作成システムを買えなかった当院での診断書作成の取り組みについて</p> <p>医師事務作業補助者が活躍している昨今、診断書作成システムが導入されている医療機関が大多数を占めている。しかし当院では他院と比較して診断書の下書きに取り組み始めた歴史や院内での認識が非常に浅いため、診断書作成システムは購入してもらえず、独自にエクセルベースで作成したものを活用している。自分達で作成していることで時間と労力が削られるが、思いもよらなかった副産物を得ることができ、能力向上に至った事例を報告する。</p>         |